

講義名	教養特講Ⅰ（経営学科へのいざない）		
科目区分	教養特講		
担当教員	井上 芳郎／今西 珠美／上田 義朗／ 柿沼 宏樹／多井 剛／持田 信治		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 商学部 マーケティング学科／2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要			
<p>・本講義は、企業経営を初めて学ぶ学生のために開講されます。経営の仕組みを身近な事例や日常的な事象と結び付けて学ぶことにより、本学商学部経営学科でのキャンパスキャリアの出発点となるものです。また同時にすべての学生に企業経営の面白さを理解してもらいたいと考えています。</p> <p>・本講義は、商学部経営学科における「経営戦略」、「ビジネスリーダー」、「グローバル経営」、「会計」の学習へと進んでいく上での手引きとしての役割を果たすものです。これら4コースを通じて、企業経営に関する幅広い知識と専門領域で要求される知識・実践的能力を身につけることで、社会に貢献できる人材となることが卒業までの目標です。</p> <p>・企業経営の基本を学ぶことから、講義内容は大きく現代の企業経営の重要性、企業の機能と役割などを時事問題などを取り上げながら、できるだけ分かりやすく解説します。毎回、資料を配付し、それに基づく教員と学生間、また学生間相互の意見交換を重視します。双方向的な講義を行います。</p>			

到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は、ビジネス関係の新聞記事や雑誌記事に関心を持てるようになります。</li> <li>2. 学生は、経営学の理論に触れることにより、新聞記事や雑誌記事の内容を以前よりも深く理解できるようになります。</li> <li>3. 学生は、仕事をしている家族やアルバイト先の先輩と経営の話ができるようになります。</li> </ol>			

提出課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当教員から課題の指示がです。</li> <li>・授業時間内に書き上げて貰います。提出物によって、出欠をとります。</li> </ul>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当教員に直接たずねてください。</li> </ul>			

評価の基準			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担当教員によって講義の最初に評価基準を説明します。</li> <li>・講義中に発言することを奨励します。自分の意見を発言・発信することが、高校とは異なった大学教育の最大の特徴だと思います。そのための練習をします。</li> </ul>			

履修にあたっての注意・助言他			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私語や講義中の教室の出入りなどを禁止します。講義中は教員の許可を得てから行動するようにしてください。</li> </ul>			

教科書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用しない。</li> </ul>			

プリント資料及び参考文献			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、討論・議論のための資料を配付します。適時、参考文献を指示します。</li> <li>・参考文献として後期で使用する「経営学入門」の教科書を購入することを推奨します（シラバス参照）。</li> </ul>			

授業計画			
<p>第1回・第2回 青木良三：新聞記事を使って、実学としての経営学および経営戦略論の守備範囲とその特徴について解説します。</p> <p>第3回・第4回 上田義朗：国際比較統計から見る日本企業の現状と展望。統計データを示しながら日本や日本企業の展望を対話式の講義で検討したいと思います。</p> <p>第5回・第6回 柿沼：経営資源の1つである「ヒト」という資源の特徴や、企業組織の中でヒトをどのように管理をするのかを学びます。</p> <p>第7回・第8回 持田信治：日本と海外のものづくりの違いに基づく、日本と海外の製造業に於ける経営戦略の違いを説明します。</p> <p>第9回・第10回 李 東浩：国の競争力ランキングをテーマに、様々な情報源より世界での日本、中国、米国の位置づけを明らかにします。</p> <p>第11回・第12回 多井 剛：経営情報。情報が第4の経営資源と言われるようになった歴史と情報を経営に活かした企業事例を学びます。</p> <p>第13回・第14回 今西珠美：企業のグローバル経営について取り上げます。国境を越え、異なる政治・経済・文化の中で活動する企業の姿を捉えます。</p> <p>第15回 井上芳郎：アントレプレナーシップ（企業家精神）。事業革新と事業創造で経済を活性化した事例と、その背景にある経営理論を解説します。</p>			

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
ア	PBL（課題解決型学習）		
イ	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
ウ	ディスカッション、ディベート		
エ	グループワーク		
オ	プレゼンテーション		
カ	実習、フィールドワーク		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の連携・引き継ぎによって予習・復習の課題を指示します。</li> <li>・初回の青木良三の講義では、「最近の企業・企業経営・ビジネスについて関心のある話題は何か」、「その話題に関心をもった理由は何か」。こういう質問に回答できるようにしてください。これが予習の一例です。</li> <li>・復習では、前回の講義の内容やキーワードについてしっかり覚えましょう。</li> <li>・予習1時間、復習1時間が目安となります。</li> </ul>			

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に質問しますから、学生は積極的に発言してください。</li> </ul>			

実務経験の有無及び活用			

備考			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に発言することを楽しみましょう。講義中に討論する問題の多くは「正解」がありません。いろいろな考え方があります。多面的に考えることが経営学のみならず大学では重要です。</li> </ul>			